

ローマ日本文化会館



映画上映会や人気作家の講演会など、多くの方に日本文化に触れる機会を。

多様な日本文化の姿を伝えるために、現代写真展・仏像写真展・日本食の紹介展などの展覧会、現代パフォーマンス、パントマイムなどの公演、ジャズ・現代音楽・邦楽・室内楽の音楽会、吉田喜重監督特集・清水宏監督特集・喜劇映画特集などの映画上映会、作家の金原ひとみ氏や鈴木光司氏の講演会などを開催しました。さらに、生け花、墨絵、友禅染のワークショップやお茶会など、日本に親しんで

もらえるような企画も実施しています。また、「日本・EU市民交流年」を記念し、ポーランドの文化機関と協力して、ローマとミラノにおいて建築展を開催しました。

現在、イタリアでは、地方においても日本に関心を持つ人が増えており、文化会館では、本年度、各地の文化団体と協力して、事業の地方展開を図っています。例えば、吉田監督特集では、トリノ、ポローニャ、フィレンツェにおいて、上映会と吉田監督と岡田茉莉子氏の講演会を実施しました。

また、イタリア北部のプレーシャや中部ラヴェンナにおける邦楽コンサートへの協力を行い、多くの方に日本文化に触れていただく機会を設けました。



ケルン日本文化会館



日独アーティストの共同発表「対話展」や映画上映会、講演会を積極的に開催。

「日本の絵本」展、橋口譲二「職」写真展、日独アーティストの作品を共通の主題のもとで紹介する「対話展」(2回)、「日独学生交流ポスター展」などを開催したほか、ホールでは日独の演奏家、歌手による「モノオペラ〜鶴〜」やパフォーマンス「グライNDERマン」などを実施しました。

「ケルンの音楽の夜」「美術館の長い夜」などのイベントにも積極的に参加。市の文学フェスティバル「市のための本」においても、テーマとなった村上春樹の作品朗読とピアノ

ストのクリヤ・マコトのジャズ演奏を併せた催し物を行いました。

また、鈴木光司朗読会(ケルン・ミュンヘン)、山崎朋子講演会(ケルン他4カ所巡回)、根立研一京大教授による日本の仏像に関する講演会などのほか、映画分野では内田吐夢、是枝裕和、鈴木清順、黒澤明らの監督特集を開催。国際交流の進む現代的なテーマとして日系ブラジル人を取り上げた映像特集も行いました。その他、初級から上級までの一貫した日本語講座の運営、図書館(蔵書約2万冊)でも参考調査など充実したサービスの提供を行いました。

なお、ゲーテ・インスティテュートとの共同事業として、「Global Players 日独現代アーティスト展」(アーヘン)やヨッシ・ヴィーラー演出の「四谷怪談」(ミュンヘン)などを開催しました。



パリ日本文化会館



フランス人の注目を浴びる本格的な総合的文化施設。

浮世絵「広重・江戸名所百景」展と、基金本部企画の「妖怪展」を開催。後者では、江戸時代に描かれた妖怪や化け物を題材とした浮世絵や絵巻物から、現代の日本の漫画・アニメにどうつながるかを提示し、約18,000人の入場者がありました。また、妖怪についてのシンポジウムも開催しました。

地下大ホールでは「グライNDERマン」によるパフォーマンス、「狂言」「能(喜多流および梅若研能会)」「寄席(落語芸術協会)」のほか、毎年実施している「J-Dance」シリーズとして「BATIK」「BABY-Q」「岡本真理子」のコンテンポラリーダンスを紹介しました。

また、チェコ、フィンランドなどパリにある外国文化センター数館の共同主催で例年実施しているジャズ週間のオープニング特別コンサートや、当地で活躍している若手日本人演奏家によるクラシック・コンサートも実施しました。

大江健三郎氏、鈴木光司氏らの講演会、アングレーム市の国際漫画フェスティバルへの招待作家・しりあがり寿氏の公開対談などを行いました。名脚本家シリーズ「伊丹万作と伊藤大輔」、五所平之助監督特集、「座頭市物語・勝新太郎から北野武へ」、妖怪映画特集などの映画上映会を実施しました。

これらの事業は、パリ日本文化会館日本友の会そして同館支援協会を通して得た民間企業からの支援金を生かして実施されたも

のです。

このほか、図書館も運営し、囲碁教室、茶の湯などの教室も開いています。日本語教育の推進にも努めており、フランスの日本語教育のさらなる振興を図るため組織された「フランス日本語教育委員会」への支援も行いました。



ソウル日本文化センター



多目的ホールを備えたセンターで、 展覧会や日本語講座を実施。

主催事業としては、芸術文化分野では2004年度に引き続き「浮世絵展」をセンターのイオンホールにて開催し、浮世絵全盛期の作品である風景画や美人画など計55点を展示しました。

また、2003年度からシリーズで開催している日本のグラフィック・デザインを紹介する事業として、日本を代表するグラフィック・デザイナーである福田繁雄氏のポスター展をイオンホールで開催するとともに、展覧会に合わせて福田氏本人を招へいし国民大学ゼロワン・デザインセンター、弘益大学(美術学部)にて講演会を実施しました。

日本語教育分野では、センターで開講している上級者向けの日本語講座を引き続き実施するとともに、中学・高校の日本語教師を対象とした教授法の研修を実施。さらに日本語学習者を対象としてインターネット上で配信するニュースレター「カチの声」を、年3回定期発行しています。

日本研究・知的交流の分野では、政治・経済・文学などの分野の学会や交流事業に助成したほか、世宗研究所と共同で、韓国の日本研究の状況についての調査に合わせた会議を、外部の専門家とともに実施しました。このほか、青少年交流・音楽・映画・社会福祉などの多様な分野の事業を対象に、合計15件の助成を行いました。



北京日本文化センター



「留華ネット」を立ち上げたほか、 民間企業、団体との連携にも力を注ぐ。

北京日本文化センターでは、日本人留学生のネットワーク「留華ネット」を立ち上げ、このネットワークを通じて中国各地の情報を収集するほか、瀋陽や杭州など各地の大学で日本文化祭などの文化交流イベントを開催しました。日本のポップスはアニメ・漫画と並んで人気があり、12月に重慶の四川外語大学で開催したJ-POPコンサートには800名以上の学生が詰めかけました。

PROMIC((財)音楽産業・文化振興財団)と協力して、重慶市、成都市、山東省等のFMラジオ局で1月から開始した日本音楽紹

介番組「音楽新幹線」は、中国の若者に好評を博しています(2006年10月現在、8つのFM局で放送中)。

一方、日本語教育分野では当センターに日本から派遣された日本語教育アドバイザー、ジュニア専門家が、北京だけでなく中国各地を巡回し、日本語教育についての研修会や指導を行っています。特に大学レベルでの日本語学習者が増加しており、12月に行われた日本語能力試験受験者数は12万6千人余りに達しました。また、中国教育部と共同で設立した北京日本学術センターは2005年に創立20周年を迎え、10月に記念シンポジウムが開催されました(27頁参照)。

本センターでは、民間企業、団体との連携・ネットワーク構築にも力を入れています。2006年3月に中国進出日本企業の社会貢献活動をまとめ、報告書を発表しました。



ジャカルタ日本文化センター



若者向けの事業が人気。 日本語教育の中核の役目も。

若者向けの事業として3年前より継続しているJポップコンサートを、バンドンとジャカルタで行い、テレビやラジオ、雑誌社から多くの反響がありました。

また、当センターのホールでは、元基金フェローの陶芸家、故スヤトナ氏展覧会を開催し、日本とインドネシアの友好の掛け橋となったスヤトナ氏の功績を振り返ったほか、若手芸術家紹介事業「Neo Pion」シリーズも3件開催し、多くの若者が当センターを訪問する機会となりました。その他にも、日本文化紹介と現地文化振興に寄与する事業として、当地の劇団が「近代能楽集」インドネシア語版を上

演しました。

インドネシアには、日本語教育専門家7名、ジュニア専門家6名が派遣されています。当センターはこれらの専門家と連携して、インドネシア各地にある日本語教育学会等への支援や弁論大会も実施しています。また、日本語教室にて、日本語講座(中級、上級)を運営しています。

さらに、日本研究誌「ジャーナルMANAU」の発行に対し協力をし、インドネシアで行われている日本研究の成果を発信できる体制を整えたほか、イスラム知識人の講演会などを通じて、イスラム社会との交流にも積極的に取り組みました。



バンコク日本文化センター



日本の現代アート展や、映画祭を実施。図書館の利用も多い文化センター。

2004年度に東京で開催された“Have We Met?”展のタイからの出品作品に新作を加え、当センターでバンコク展を企画実施。また、タイ文化省等との共催で、シルパコン大学美術館において、奈良美智+grafの作品に、タイや日本、欧州のアーティストの作品を加えた現代アート展「東の間美術館ソイサバーイ」

展を開催しました。タイ文化センターにて、沖縄伝統舞踊の公演を行ったり、日本映画祭を、バンコク市内の複数の映画館で実施しました。

当センターではタイ人日本語教師の研修や、中・上級者向けの日本語講座を開講しています。図書館は日本研究学者や日本語教師を初め、幅広い層の人々に利用されており、2005年度はのべ6万6千人に利用されました。



クアラルンプール日本文化センター



クアラルンプール舞台芸術センターとの協力事業を実施。

クアラルンプールに新しくオープンしたKL舞台芸術センター (KLPac) の柿落とし公演として、ダンスカンパニーBATIKの公演を開催。当国の舞台芸術の中核的施設として発展が期待されるKLPacではこのほか、舞踏家室伏鴻と当地ダンサーによる共同制作公演、ク

アラルンプールではすっかりおなじみとなった英語落語、また劇団「態変」による公演と当国の障害者向け演劇ワークショップを開催しました。映像の分野では、当地の関係団体と共催でアニメプロデューサーを招へいし、講演会および作品上映会を実施しました。日本語教育の分野では、普通中等高等学校への日本語教育導入に向けた1年間の日本語教師

養成研修が本格的にスタートしました。



シドニー日本文化センター



2006年日豪交流年の文化交流事業開催。

文化・芸術事業では、2006年日豪交流年のオープニング行事として2006年2月～3月に林英哲と風雲の会とタイコーズの太鼓コンサート、シドニーほか5都市で開催しました。

当センターギャラリーにおいては、日本在住のオーストラリア人装飾アーティストの山口カウラ氏による写真と装飾アートの展覧会・ワークショップを開催したほか(2005年12月)、絵

本作家の荒井良二、鈴木コージ両氏を招へい、「絵本の世界展」とワークショップを開催し、好評を博しました(2006年3月)。

恒例となっている巡回日本映画祭は、第9回を迎えました(シドニーほか4都市で開催)。シドニーでは中越地震で被害のあった旧山古志村を題材とした「掘るまいか!」を上映し、それにあわせて元同村村長の長島忠美氏も来豪し、トークショーを行いました。同映画の

チケット売上金は、同村の復興支援義援金として寄付されました。



トロント日本文化センター



広いカナダの日本語教育のネットワーク作り。

日本の近代化を紹介する展覧会を開催しました。渋沢史料館との共催で、錦絵の複製パネル・写真パネル等の歴史資料を展示したのですが、あわせて講演会等も行いました。また、横尾忠則自選の1993年から現在に至る最新作の寄贈を受け、ポスター展を開催しました。当センターの図書館開館10周年記念講演会「作家と図書館」を行いました。

トロントにある王立オンタリオ博物館 (ROM) に高円宮ギャラリーが開設されましたが、そのオープニング行事として、茶道・華道アモンストレーションが行われました。

モントリオールおよびバンクーバーで開催された映画祭では、日本映画も上映され、映画祭に対して助成を行いました。

カナダは広大な地域に日本語教育機関が点在しており、それぞれの機関間の情報交換ができていく地理的事情がありますが、当センターの呼びかけにより東部カナダの中等教育機関の日本語教師を集めて研修会・情報交換会を行うなど、ネットワーク作りを支援しています。



サンパウロ日本文化センター



「カラオケ日本語教育キャラバン」を実施。

当センターでは、日本文化講座や舞踏についての講演を行いました。「現代日本の陶磁器」展をサンパウロ美術館で開催、その後ブラジル、マナウス等6都市に巡回しました。また、日本無声映画にポルトガル語の弁士と楽器演奏をつけた上映会もサントス、カンピーナス等へと地方展開しました。「維新派」公演をサントス市で実施しました。

新企画として、「カラオケ日本語学習キャラ

バン」を行いました。サンパウロ、ブラジル、マナウス等8都市へ原則車で出かけて行き、中高・大学生に対し、日本の若者の歌を通じて日本語を学ぶ楽しさを伝えました。あわせて実施したサンパウロでの全国カラオケ大会には1,000人以上の観客が詰めかけ会場は熱気に包まれました。

当地には24時間日本の歌を流しているインターネットラジオ局もあり、日本のアニメや歌は人気を博しています。



マニラ事務所



日比友好年事業を実施。

2006年は日比友好年と銘打ち、両国の国交回復50周年を記念して1月より様々な事業が行われました。オープニング・イベントとして、和太鼓「倭」公演を実施、またマニラ最大級のショッピングモールを舞台に、J-POPコンサートやポスターとCD・DVDの展示・視聴、日本映画上映、写真展、さらには日本語スピ

ーチコンテストや日本文化デモンストレーションを一举に開催しました。J-POPコンサートでは、フィリピンの人気ポップス歌手が競演し、当国の戒厳令下にもかかわらず2000人以上のファンで盛り上がりました。



ニューデリー事務所 (2006年9月にニューデリー日本文化センターとなる)



日本文化センター開設をめざして。

ニューデリー日本文化センターを2006年度にオープンすべく、建物内装工事と事務所移転準備が進められました(2006年9月に日本文化センターオープン)。

2005年4月の日印首脳合意の共同声明で、2010年までに日本語学習者数を3万人とする発表されたのを受けて、インドでは2006年度から中等教育において日本語科目が導入されることとなり、当事務所はカリキュラムおよびテキスト制作についての支援を行いました。

北インドに2名(当事務所駐在)、南インドに1名(バンガロール大学駐在)配置された日本語教育アドバイザーが、日本語教育促進、教師の支援を行っています。

特に南インドはIT産業の進展に伴い日本語学習者数が増加しています。

デリー大学、国文学資料館の共催で行った日本文学に関する日印の研究者のセミナーなど日本研究に関するセミナーを助成し、学生も多く参加しました。



ニューヨーク事務所



全米の日本研究事業をとりまとめるとともに、巡回日本映画上映会などを実施。

2005年秋から翌年春にかけてニューヨーク近代美術館、リンカーンセンター、フィルムフォーラム、ジャパソサエティ、ブルックリン音楽院の5つの主要非営利映画上映機関が実施した日本映画特集を、在ニューヨーク日本総領事館、国際観光振興機構の協力を得て、新聞、ホームページなど多彩なメディア上で総合的に紹介しました。日本映画が上映される機会の少ない中西部のカンザス大学、

ウィスコンシン大学マディソン校等5つの大学でも巡回映画上映会を実施しました。

舞台芸術に関しては、Performing Arts Japan(北米における日本の舞台芸術上演に対する助成)の事務局として審査会を実施したほか、全米最大の芸術見本市であるAPAPにブースを出展するとともに、アジアソサエティにおいて邦楽グループ木乃下真市(津軽三味線)・茂戸藤浩司(太鼓)・小野さゆり(笛)のショーケース公演を実施しました。



ロサンゼルス事務所



全米の日本語教育事業を主に実施。 日本語教育の現状と今後の展望を考察。

バルチモアで、全米各地の日本語教師会代表者を集めて、日本語教育シンポジウムを開催し、各地の代表者による活発な議論が行われました。

また、AATJ(全米日本語教師会連合)と

フロリダ日本語教師会の協力を得て、オンライン研修とフロリダ国際大学における実地研修から構成される、米国日本語教師のための夏季研修を実施しました。

また、米国各地の有力な美術館の学芸員が集まり、美術館が抱える課題とその解決方法について意見交換を行ったキュレーター会



議もロサンゼルスで開催しました。

メキシコ事務所



中米と日本の交流強化に向けて。

セルバンテール国際芸術祭において、現代芸術の数々を紹介し、大きな反響をよびました。(13頁参照)

また、日本とメキシコの文化人を集めた日墨文化サミットを9月にメキシコシティで開催し、今後の文化交流のあり方など幅広いテーマ

について議論を深めました。メキシコでも着実に発展する日本語教育の分野では、日本語教師に対する研修や教育機関への教材寄贈など、教育基盤の強化に貢献する事業を展開。また、メキシコと中南米の日本研究者・日本研究機関同士のネットワークの強化をめざしたセミナーも開催しました。このほか、メキ



シコに在住する茶道や華道などの日本文化の専門家を近隣国に派遣して、中米諸国における文化交流事業にも協力を行いました。

ロンドン事務所



日本語講座の普及のための ヘッドスタート事業を実施。

「日・EU市民交流年」となった2005年は、ストリングラフイー・アンサンブル公演(4都市で開催)や、漫画を原作とする映画の特集上映「Comic Proportions」(5都市)をはじめとする様々なイベントを開催しました。またヴィクトリア&アルバート博物館と協力して、地方

の美術館・博物館に収蔵されている日本関係コレクションの現状に関するシンポジウムと公開セミナーを実施しました。その他、事務所の小規模助成プログラムで芸術・日本研究などの分野での助成も行いました。

日本語教育分野では、日本語教師の日本語力向上のための講座や、日本語を導入していない学校の語学主任を対象に日本語の



入門授業と情報提供を行なうヘッドスタート事業、各地の学校の求めに応じて出張授業などを実施しました。また事務所のウェブサイトを通じ、教材を含めた日本語教育関連情報を掲載しています。

ブダペスト事務所



事務所を市内中心部に移転。

「日・EU市民交流年」であった2005年にはハンガリーでも数多くの交流事業が実施されました。中欧最大規模の野外フェスティバルであるシゲットフェスティバルにて和太鼓とドラムスのユニット「ヒダじんば」公演を実施、また秋には文楽公演を実施し、連日満員の大盛

況となりました。ほかに日本相撲連盟評議員の竹内龍作氏らによる相撲の実技、解説や、(株)マッドハウスの丸山正雄氏による日本アニメ講演会や映画上映会を実施しました。

地方、近隣諸国においては、ブダペスト事務所が所蔵する写真パネルや日本人形等の展示セットの巡回展示事業にも力を入れてい



ます。市内中心部への事務所移転によって、図書館利用の利便性も向上し、毎年9月に開講する日本語講座では約90名が学んでいます。

カイロ事務所



日本文化フェスティバルを開催。

当事務所と在エジプト大使館広報文化センターが共同で企画して、カイロにおける『2006日本文化フェスティバル』を開催、津軽三味線演奏会、三浦友理枝・カイロ交響楽団共演コンサート、日本人とエジプト人のアラブ音楽演奏家が共演するコンサート、人形展、日本映画祭といった5つのイベントを集中的に実

施し、総来場者数は5,000人を超えました。また、青少年に対して日本に関心を持ってもらおうと、アラビア語訳の吉本ばななの小説「TUGUMI」の感想エッセイコンテストや俳句(HAIKU)を紹介する講演会などを実施しました。

日本語教育の分野では、エジプト国内を中心として中東地域全体の日本語教育機関・教師を対象に支援を行っています。毎年



東地域の日本語教師を対象としたセミナーをカイロで開催し、教師の研修やネットワーク作りを促進しています。